



《こども版》 としょかんだより No. 307

2010年

1月号

# わくわく本だな

富山市立図書館

## 今月のおすすめ



★ = 1・2年  
★★ = 3・4年  
★★★ = 5・6年

—あたらしくはいった本の中から、おすすめの本をしょうかいします—

### 「みみかきめいじん」 かがくい ひろし／作 講談社

ひよ・うーたん先生は、耳かきの名人。今日もみみかき草を手にお客の耳をほじほじほじ。客は、その気持ちのよさに、とろけたり丸まったり。しまいには、とうめい人間までやってきましたが、耳がわからず、はなのあなをほじほじほじしてしまいました。



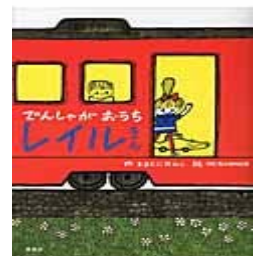
### 「むねとんとん」 ★ さえぐさ ひろこ／作 小峰書店

ひとり暮らしのくまくんのおばあちゃんは、家族とくらすため、くまくんの家に来ました。ひさしぶりに会ったおばあちゃんは、さんぽからの帰り道をわすれたり、ようすがおかしいのです。ある日、おばあちゃんは「くまくんといっしょにしたことや、くまくんがいったことを、わすれないように」とむねをとんとんたたきはじめました。

### 「でんしゃがおうち レイルちゃん」 ★★

おおたに みねこ／作 理論社

レイルちゃんは、わけあってヨーロッパ中の列車を乗りついで暮らす9歳の女の子です。ある日、列車の中で男の子ピピと出会いました。ピピのおかあさんはヨーロッパ中で指名手配の大どろぼう怪盗シンシアでした。どうしたわけか、ピピは、レイルちゃんと旅をしたいと言い出します。



# あたらしくはいった本

## えほん

「やまのバス」 内田 麟太郎／文 佼成出版社



おくやま行きのバスは明日から、なくなります。運転手のやまださんは、さびしさのあまり、「だれでもいいから、乗ってくれたらバスはなくなるのに」とつぶやきました。そのつぶやきは、風によって動物たちの耳に入りました。すると、帰りのバスには、動物たちが、やまのさちを持って乗りこんできました。

## ものがたり



「シャーロック・ホームズには負けない」 ★★★

ピート・ジョンソン／作 文研出版社

12歳のターシャは、<sup>しりつたんてい</sup>私立探偵になるのが夢。毎日ミステリー小説<sup>けんきゆう</sup>を読んで研究<sup>かつやく</sup>をしています。ある日、ターシャの村に引っ越してきた転校生のヘンリーが、「僕は<sup>ぼく</sup>スパイで、向かいのバクスター<sup>け</sup>家を見張りたい。協力してもらえないか。」と申し出<sup>たんていのうりよく</sup>します。ターシャは、自分の探偵能力<sup>はつき</sup>が発揮できると、はりきります。



## おしえて、世界のおはなし スペイン



太陽<sup>じょうねつ</sup>と情熱の国といわれるスペインには、<sup>けんちくぶつ</sup>建築物や<sup>ぶんかいさん</sup>芸術などの豊かな文化遺産がたくさんあります。アルハンブラ宮殿<sup>きゆうでん</sup>や、民族舞踊<sup>みんぞくぶよう</sup>のフラメンコ、闘牛<sup>とうぎゆう</sup>などが有名です。

「あくびばかりしていたおひめさま」 グスティ／作 光村教育図書

「かたあしのひよこ」 水谷 章三／文 ほるぷ出版

「ふわりん」 カルメン・クルツ／作 徳間書店

「スペインのむかし話」三原 幸久／編訳 偕成社

「ポルコさまちえばなし」ロバート・デイヴィス／文 岩波書店



## ものがたり

### 「すてきなルーちゃん」 ★

たかどの ほうこ／作 偕成社



ママの妹ルーちゃんは、不思議な絵を描く絵描きさんです。わたしが学校のできごとを話すと、ルーちゃんはかわりに、ありえないような不思議な話やちょぴりこわい話をしてくれます。楽しい話が6つ入っています。

### 「ヤマタノオロチ復活」蓮の奥出雲戦記

★★★★

廣田 衣世／作 岩崎書店



長く黄泉国に封印されていた八つの御霊ヤマタノオロチが、現代に逃げこみました。オロチを追って黄泉国からやってきた“あきひこ”と出会った五年生の蓮は、一緒に、オロチ退治に出かけることになりました。

## ちしきの本

### 「絵で見るおふろの歴史」

菊地 ひと美／文・絵 講談社



日本のおふろのはじまりを知っていますか。奈良時代の蒸気を使った「どうくつぶろ」、身分の高い人だけが入れた「お湯殿」、江戸時代中期から始まったお湯につかれる「湯屋」など奈良時代から現代までのおふろの移り変わりや生活の変化がわかりやすく描かれています。

### 「着物のえほん」 高野 紀子／作 あすなろ書房



日本の美しい伝統文化である着物。結婚式、お正月、七五三にふさわしい着物や、正しい着方、たたみ方などがイラストで紹介されています。

名作をよもう！  
今月の1さつ

「トムは真夜中の庭で」 ★★★

フィリパ・ピアス／作 岩波書店



トムは、夏休みに、弟のはしかがうつらないようにと、古いアパートに住むおばさん夫婦に預けられました。大人だけの家で、退屈しきっていたトムは、真夜中に玄関にある古い大時計が13時を打つのを聞きました。トムが、下へ降りると、昼間は鍵がかかっていたドアが開き、美しい庭園が広がっていました。そこで、不思議な少女ハティと知り合います。



## とやまし あ・れ・こ・れ

### 富山県民会館分館 金岡邸（薬種商の館）

富山の売薬は、富山藩二代目藩主前田正甫公の頃から始まったと言われています。新庄町にある金岡邸は、江戸末期より薬種商で、売薬業も営んでいました。柳行李や売薬版画、薬たんすなど、300年の歴史をもつ富山の売薬に関する資料が保存展示されています。

伝統的な木造建築を取り入れた母屋部分を含め、平成10年には、国の登録有形文化財に指定されました。



柳行李

富山市立図書館のホームページでも

「わくわく本だな」を見ることができます。



< 編集・発行 >

富山市立図書館

富山市丸の内1丁目4-50

電話 076-432-7272